



東京日々新聞

九百廿六号



日向國臼杵郡永井村にて先月

十一日明見社の祭禮ありしに

村の者とも集りて例の村芝居

と催したるは狂言の則ち忠臣蔵

の部が五段目と主として此村の精藏と

ちんちんの定九郎と扮して舞臺に出て

彼の入りやりの五十向と云ふ件迄演

え行はば今日の出来は精藏兄の定九郎

ありと見物も答ぬ居りしに

勘平は扮したる男をねて所持

の攝鏡と持出しハタト火蓋を

切て落さずや否や定九郎ハ彈丸は

打貫られてウンと仰り倒さるる即死

しりと勘平も相濟ずとて腹を切りや否や

未だ確報なりとも村戯場可変しは事有りて是し

此精藏の如き猪打報じりもまじき

實に憫然の至りたりと人々興と聞

たるを

一葉齋
琴



人形
具足屋

